

## 2. 利用から活用へ、公園の多元性

—福島県郡山市「平成記念郡山こどものもり公園」を参考にして—

石田沙希

### (1) 現代の地域社会における公園の姿

地域社会の中には住民同士が顔を合わせる場所が多く存在する。市役所などの行政機関、小中学校などの教育機関、他にも駅、バス停、商業施設など住民同士が触れあえる機会は生活の中に多数ある。しかしながら、顔を合わせ軽い挨拶をするだけで、住民同士が積極的に会話をするまでにはいたっていない。さらには、そのような機会が減ってきて、住民同士のつながりが希薄化しているなどとも言われてきている。このような現代社会に存在する地域資源の中で、ここでは、住民同士が集う共有スペースである公園に着目する。

地域によっては、住宅街の中心に設置されている公園もあればそうでないものもある。近年では、マンションなどの中庭や屋上などにオープンスペースとして公園を設置したり、ニュータウン開発に伴ったコミュニティ公園があったりと、地域社会の中心地として想定され新たに作られた都市公園が増えている<sup>1</sup>。そのため住民のアクセスが容易であり、地域資源として多くの住民に利用されている。そして、国土交通省都市局公園緑地・景観課では、都市公園再生プロジェクト研究会が設立され、都市における公園の魅力開発や景観保全などの研究や啓発教育活動などが行われている<sup>2</sup>。一方で、福島県郡山市にある「平成記念郡山こどものもり公園<sup>3</sup>」のように地域社会の中心地から外れた場所に立地している公園もある。地域の公園にも関わらず、住宅地から離れているため徒歩で行くことが困難で、車でのアクセスが求められてしまう。そのため地域住民の利用が減り、地域資源として利用されなくなっているのが現状である。

また、主な公園の利用者としては、子どもをもつ親・高齢者・小中学生などである。様々な要因により、現代社会ではそういった地域住民も公園に足を運ぶ機会が少なくなってきたが、前述したように、都市公園では地域社会の中にうまく組み込まれており、住民の利用が増えてきているようだ。しかしながら、中心地から離れた公園では、利用者がますます減ってきている。最近では、2011年の3.11東日本大震災で発生した原発事故による放射能問題もあり、それに呼応するかたちで福島県では公園の利用者が減少している。

このように地域の活性化に寄与する都市公園が存在する一方で、私が今回参考にした「平成記念郡山こどものもり公園」のように地域資源として住民にうまく活用されていない公園もある。これまでは、地域資源である公園を「利用」すなわち「提供された資源・サービスを生活の中で受動的に役立てる」ことに重点を置いていたが、これからは「活用」すなわち「提供された資源・サービスを能動的あるいは主体的に生活の中に取り入れる」ことへと移行していくことが重要ではないだろうか。これらの視点から、既存の地域資源である公園に注目して、公園が担う新たな役割や地域全体の活性化につながるような改善策を提言していく。

### (2) グリーン・インフラとしての再考

公園の新たな側面として注目されているのが、「グリーン・インフラ」としての役割である。グリーン・インフラとは、道路、都市などによって分断された動植物の生息地と人間の生活スペースを計画的に（例えば、植林地や野生生物が通れるように橋や屋根を緑地で

覆った「グリーンブリッジ」や「グリーンルーフ」などで) つなげたネットワークで生態系を守る試みのことを指す<sup>4</sup>。また、連結性(開発により分断化されたランドスケープにおける生態系のつながりや生物の種間関係などの健全なあり方)の保障された健全な生態系を確保することを通じて生物多様性の保全に寄与するのみならず、水の浄化、生産性の高い土壌の維持、質の高いレクリエーションの機会の提供などの生態系サービスを介して地域社会に利益をもたらすと考えられヨーロッパでは広く浸透してきている<sup>5</sup>。

日本においても「グレー・インフラ」から「グリーン・インフラ」へと転換する試みがとられている。2011年に発生した東日本大震災において、コンクリートで埋め固められ造られた「まち」が住民の命を守る存在として不十分であることを認識し、国内でも減災・防災の視点からグリーン・インフラに関する講演会が開催され始めている。実際に、岩手県陸前高田市では「グリーンインフラ構想」が計画され、防災メモリアル公園の設立も検討されている<sup>6</sup>。

気候変動問題や地球温暖化に伴う自然環境の破壊が大きく懸念されるようになり、地域住民も主体的に環境問題について議論していかなければならなくなった。そこで、環境を保全する場、自然と人間とが共生するための架け渡し役として公園を活用することに注目が集まっている。「平成記念郡山こどものもり公園」においても自然観察や自然体験活動ができる施設が設備されているが、それを知っている地域住民は少ないだろう。公園が、人々の豊かで健やかな暮らしに寄与するということが住民自身が認識していくことが希求されるだろう。

### (3) コミュニティの核、コミュニケーションの場としての提案

ここでは、平成記念こどものもり公園が多く住民に利用されるだけでなく、地域資源として広範に活用し、更に地域活性化につなげるために、私自身どのようなことが提案できるか考える。具体的には、以下の項目となる。①学校行事・野外学習、②野外コンサート会場、③芸術家の展示会、④住民参加型の公園管理、⑤子育て世代の育児サロン、⑥街コンの会場、婚活パーティーなどである。

①では、公園内に設置されている「もりの館」「野鳥・昆虫の森」を活用して、自然に触れ合う機会が少なくなってきた現代の子どものために体験教室を開催する。小中学校の総合的な学習の時間や親子体験教室など、自然との共存の重要性を幼少期から意識化することを目的とする。

②・③では、野外フェスや展示会などを既存の公園で開催することにより、運営費が削減されたり、幅広い世代が参加しやすくなったり、音楽や芸術が身近なものとして感じられたりなどのメリットがあるだろう。また、自然と人間が創り出した音楽や芸術との融合という新しい分野の開拓できる。

④では、地域住民が公園の維持や管理について発言できるようにし、住民共有の地域資源であることの自覚を促進させる。それにより、住民同士の自発的な公園利用が望め、結果として地域性の創出や地域の自立につながる。

⑤では、公園を利用することの多い世代がより足を運ぶようにするためにも、お互いの育児論や悩みを共有する催しを提供する。時には、子育ての専門家を招いて、ミニ講演会を開く。これによって、虐待やネグレクト、育児による孤立を防止し、地域全体で子ども

を見守るという体制が作られる可能性がある。

⑥では、まちの中心地の飲食店を利用する街コンが多いが、公園という自然の中でバーベキューやハイキングをするというような体験型の街コンが企画できるだろう。

#### (4) 公園の積極的な活用に向けて

現状として、私たち地域住民は、地域資源の利用に留まっているのではないだろうか。

グリーン・インフラにおいては、緑で整備された地域が、自然環境や動植物にとって有益であり、人間にとっても利益をもたらすということを地域住民がきちんと理解することが希求される。そのための啓発活動なども住民が主体となって企画していく必要があるだろう。

コミュニティの中心としての提言においては、全てが実現可能なものではないが、現代社会にそった公園の活用法だと考える。今まで抱いていた公園という概念を超えたものでなければ、住民に興味を持ってもらえない。また、興味を持ってもらったら、その関心が持続していかなければ意味がない。公園という地域資源の機能が持続していくためには、遊具を増やしたり改修工事をしたりするだけでは不十分である。時代に即した活用方法を生み出していかなければならないだろう。その意味でも、公園は潜在的な多様性が広がっていると推察できる。

前述したように、「活用」という言葉には、主体性が含まれていると私は考える。社会に提供される資源やサービスをただ消費するのではなく、自身で自らの生活に組み込んでいく必要があるだろう。公園というものが、日常生活にどのように作用するのか、あるいはどのような有益なものを生み出すのかということをも住民自身が自己探求していかなければならない。その姿勢が、住民の自立や地域性の創出につながり、地域の活性化につながるのだろう。

---

<sup>1</sup> 国土交通省、国土交通政策研究所「マンションの適正な維持管理に向けたコミュニティ形成に関する研究」：<http://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/syousai/kkk91mokuji.html> (2014年1月12日参照)

<sup>2</sup> 国土交通省都市局公園緑地・景観課、都市公園再生プロジェクト研究会：<http://www.toshikouensaisei-pj-kenkyuukai.com/index.html> (2014年1月12日参照)

<sup>3</sup> 約14.5haの広さをほこるこの公園は、平成時代の幕開けを記念と21世紀を担っていく子どもの健やかな成長を資するため、緑豊かな子どもの活動の場所となる公園を整備することを目的として、旧建設大臣（現国土交通大臣）より指定を受けた全国15カ所の平成記念こどものもり公園の1つである。園内には、自然観察を行う「野鳥・昆虫の森」、日時計の「太陽オブジェ」、自然体験活動を行う「もりの館」などがある。その他に、もりの広場からは走行する新幹線を間近に見られる場所がある。

<sup>4</sup> 駐日欧州連合代表部の公式ウェブマガジン「EUの生物多様性戦略」：<http://eumag.jp/issues/c1012/> (2014年1月12日参照)

<sup>5</sup> 生物多様性オンラインマガジン、鷲谷いづみ「次世代を守るグリーンインフラストラクチャー」：[http://www.midoripress-aeon.net/jp/column/20130718\\_post\\_9.html](http://www.midoripress-aeon.net/jp/column/20130718_post_9.html) (2014年1月12日参照)

<sup>6</sup> 陸前高田市 HP、防災メモリアル公園：<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/bousaimemorialpark/memorialpark.html> (2014年1月12日参照)